2024
# 6月号

# NISSOだより
日本総合教育専門学校
M・Matsumoto
No. 110

## 幼児教育学科4年生「保育実習Ⅱ・Ⅲ」終了！

保育園、施設に分かれてそれぞれ12日間、最終学年なりの深い学びと経験を得ることができたようです！

次は、いよいよ学校生活最後の教育実習！4年間積み重ねてきた知識と技術を大いに発揮して、自信を持って社会に飛び立ってほしいと思います☆

教員採用試験受験メンバーも、試験まで残り僅か!! 悔いの残らないよう、精一杯自分の力を発揮してくださいね!!

## 両学科3年生「保育実習Ⅰ」始まります！

こども学科3年生の保育実習Ⅰ（保育園）、幼児教育学科3年生の保育実習Ⅰ（施設）が、6月3日から始まります。

各自希望先の園や施設での12日間実習で、施設では宿泊実習の学生も数名います。

事前準備をしっかりと行い、くれぐれも事故や体調に気を付けて頑張ってきてくださいね！

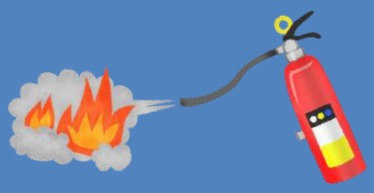
## 日総　避難訓練！

5月24日（金）、1年生にとっては初めての避難訓練。訓練と分かっていましたが、いざ火災報知器が鳴ると一気に緊張が走り、各学年真剣に取り組むことができました！

また、消火器の使い方の説明もあり、いざという時に扱えるようになるためみんな集中して聞くことができていました。

将来、真っ先に子どもたちの命を守らなければならない立場となる学生たち。

このような訓練を期に、防災への意識もどんどん高めていってほしいと思います！



## 児童養護施設 湯出光明童園から 施設説明に来ていただきました

水俣にある児童養護施設「湯出光明童園」から5名の職員の方に来ていただき、全学生に向けて施設についての説明をしていただきました。

施設での実習を終えてすぐの学生や、これから実習を迎える学生にとっては、児童養護施設はどのような子どもたちが利用しているのか、どのような支援がなされているのかなど、その役割をより深く理解することができたようです！

説明終了後、児童養護施設で実習をしてみたいという学生もいました！

湯出光明童園の皆様、本当にありがとうございました☆

# 『第6回 高瀬のお寺まるしぇ』に参加しました!!

以前、本校講師であった光尊寺の松本英祥先生からお誘いいただき、高瀬裏川花しょうぶ祭りメインイベントと同日に行われる『お寺まるしぇ』に参加しました！

子どもたちもたくさん来るため、1年生を含む日総ボランティアメンバーでキッズスペースを用意しました♫

読み聞かせコーナーでは、手遊びで子どもたちを大いに楽しませながら、堂々と絵本や紙芝居を読み上げました☆

また、塗り絵コーナーでは学生が自分で描いたたくさんの絵を塗り絵として準備しており、子どもたちは思い思いに色を付けて喜んでいました☆

輪投げコーナーでは、2年生が作ってくれたかわいいペットボトルの的を狙って、行列を作るほどの子どもたちが次々に輪を投げながら盛り上がっていました！何度も何度も列に並んで挑戦してくれる子どももたくさんいましたよ！

当日は本当に暑かったですが、学生たちは朝から夕方まで汗だくになりながらも子どもたちに楽しんでもらうために、準備から片付けまで本当によく頑張りました!!

地域の方々にも日総の良さを知っていただくいい機会になったと思います☆　本当にお疲れ様でした!!

2年生が作ってくれたペットボトル輪投げ♪
1本1本とってもかわいくて子どもたちにも大人気でした!!
それぞれに点数があり、高得点を出すためにたくさんの子どもたちが挑戦し、一喜一憂していましたよ☆よちよち歩きの小さなお友達も、ママと一緒に一生懸命輪を投げて遊んでくれました♡

## 校長室の窓から

愛、深き淵より　　文責　髙木

この四月末、詩画家星野富弘さん逝去のニュースをネットで知った。詩画展はもちろん、星野さんの詩画集のカレンダーは今も方々で賞賛され感動を生んでいる。大学を卒業して体育教師として教職に就きその年の春に子ども達への跳び箱指導師範中に頸椎を骨折、首から下が全く動かない状態。のちに口に絵筆をくわえ、野の草花に詩を添えられた作品は多くの人々に今も感動を与えつづけている。

芦北には記念館もあるが移動を伴う体調面の心配から熊本を訪問されることはなかなか叶わなかった。唯一私が星野さんの熊本での講演を拝聴できたのは、もう数十年前に遡る。講演期日の前日たまたま通町の交差点で車椅子というよりストレッチャーで移動される星野さんご夫婦に出くわした。私はそれまで幾度となく星野さんの代表作「愛、深き渕より」を何度も涙ながらに読み返していたので、すぐに駆け寄り「星野さん、私同業者の体育教師です」と声を掛けたかったが、その勇気はなく今でも後悔している。

著書では事故に遭いやっと病室からストレッチャーを母親から押して貰い、入院患者が集うテレビの前の情景が紹介されている。いろいろ障害を残したままの人達の会話で「貴方はまだ良いよ。あの〇〇号室の青年は首から下全く動かないらしい、可愛そうに」その〇〇号室は自分の部屋であることに愕然としてしまう。それをも乗り越え母親の介助で口に絵筆を加え、数々の作品で人々に勇気と感動を届けて頂いた。人の幸不幸はついつい周囲と比較され感じる現実が多いことも乗り越え、愛、深き淵より野の草花と生命観を綴りつづけられた星野富弘さんに改めて哀悼の意を表したい。残念で悲しい。